

セントポール会
クリスマス礼拝



2024年12月14日(土)
立教学院聖パウロ礼拝堂



クリスマス礼拝にお越しくくださった皆様へ

本日は、セントポール会クリスマス礼拝にご出席くださいまして、誠にありがとうございます。これから始まる静かなひと時を、皆様と一緒できますことを心より感謝申し上げます。

慣れないこともあるかとは存じますがどうかしばらくの間、聖書と祈りのことばに耳を傾け、またオルガンの伴奏に合わせて、クリスマスの聖歌をお楽しみいただければと願っています。

礼拝は聖公会の伝統に則って式文を用いて行いますが、皆様はどうぞ「会衆」、「一同」と冒頭に記されている箇所をご唱和ください。

また式中、献金を集めますが、お気持ちを献金袋に入れてお献げくだされば幸いです。なお献金はとくに国内外の災害や飢餓等で苦しむ人々のために用います。

それでは鐘の音を合図に、御子イエスのご降誕を喜び祝うクリスマス礼拝を始めさせていただきます。この礼拝を今年の良き思い出の末席に加えていただければと願っています。

奏 楽 入 堂

聖 語

一同立ちます。

司式者 「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。
(コリントの信徒への手紙II 4章6節)

神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。
(ヨハネの手紙I 4章9節)

司式者 祈りましょう

主イエス・キリストよ、わたしたちは知っています。あなたがわたしたちと共におられることを。それでも、あなたがおいでになるのを、わたしたちは待ち望みます。神よ、暗闇の中、あなたが与えられる希望のしるしを求めさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

一 同 アーメン

一同着席します。

第1日課 ルカによる福音書第1章26～38節

着席のまま。

朗読者 第1日課 ルカによる福音書第1章26節から

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え

込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

朗読者 聖書を終わります

一同立ちます。

聖歌69番（9・10ページ）

第2日課 ルカによる福音書第2章1～20節

一同着席します。

朗読者 第2日課 ルカによる福音書第2章1節から

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。」

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださいましたその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりにだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

朗読者 聖書を終わります

一同立ちます。

聖歌 329 番 (15 ページ)

第3日課 マタイによる福音書第2章1～12節

一同着席します。

朗読者 第3日課 マタイによる福音書第2章1節から

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたした

ちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、
お前はユダの指導者たちの中で
決していちばん小さいものではない。
お前から指導者が現れ、
わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』』

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせしてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上にとまった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。

朗読者 聖書を終わります

一同立ちます。

聖歌94番（11・12ページ）

第4日課 ヨハネによる福音書第1章1～14節

朗読者 第4日課 ヨハネによる福音書第1章1節から

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しな

った。

神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

朗読者 聖書を終わります

ここで礼拝堂の照明をつけますので、LED キャンドルのスイッチをオフにしてください。

クリスマス・メッセージ

一同着席します。

祈り

着席のまま。

司式者 主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、憐れみをお与えください

司式者 主よ、憐れみをお与えください

一同主の祈りを唱えます。

一同 天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アーメン

献 金

オルガンによる奏楽を聴きながら献金をおささげください。係の者がかごを持って回りますので、お気持ちをおささげください。なお、ご協力いただいた献金全額は、諸施設の働きのため、また国内外の苦しき悩むかたがたのために用いられます。

一同立ちます。

司式者 恵みにあふれる神よ、今わたしたちのささげるこのクリスマス献金を受け、これを祝福し、活かし用いてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

一 同 アーメン

司式者 主よ、主の慈しみを示し

会 衆 主の救いを与えてください

司式者 主の仕え人に義をまとわせ

会 衆 主の聖徒に喜び歌わせてください

司式者 主の民を救い

会 衆 主の子らを祝福してください

司式者 主の平和を今の世に与え

会 衆 地の果てまで、戦いをやめさせてください

司式者 主の道をあまねく地に知らせ

会 衆 主の救いをすべての国に知らせてください

司式者 主よ、わたしたちのうちに清い心を造り

会 衆 聖霊によって支えてください

司式者 主は皆さんとともに

会 衆 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

降誕日特祷

司式者 全能の神よ、あなたは独りのみ子に人性を取らせ、この時、清いおとめから生まれさせてくださいました。どうかその恵みによって、再び生まれ、神の子とされたわたしたちを、常に聖霊によって新しくしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

一 同 アーメン

世界平和のため

司式者 真理と平和の源である全能の神よ、すべての人の心に平和を愛するまことの愛を燃やし、国々の交わりに携わる人びとに、平和を造り出す知恵を与え、主の愛を知る知識をこの世界に満たしてください。父と聖霊とともに世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

一 同 アーメン

難民とその他の被災者のため

司式者 慈しみ深い主よ、み子イエス・キリストはすべての人がみな主の家族として平和に生きるために、十字架により憎しみの隔ての壁を除き、主による和解の道を開いてくださいました。どうか今、戦争、弾圧、災害などのために住まいを失った人びと、離散させられた人びと、また飢えと病のうちにある人びとを憐れみ、その必要を満たしてください。また主の愛と真理によって、その災いから解放し、まことの幸いに導き帰してください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

一 同 アーメン

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、わたしたちとともにありますように。

一 同 アーメン

聖歌 82 番 (13・14 ページ)

1 も ろ び と こ ぞ り て む か え ま つ れ
 2 あ く ま の ひ と や を を う ち く ま だ つ き て
 3 こ の 世 の や み を を て ら し た も う

ひ さ し く ま ち に し 主 は き ま せ
 と り こ を は な つ と
 た え な る ひ か り の (主

り 主 は き ま せ り 主 は 主 は き ま せ り
 は き ま せ り (4)
 (主 は き ま せ り)

868668

Hark, the glad sound! the Saviour comes
 Philip Doddridge (1702-1751)

ANTIOCH
 George Frideric Handel (1685-1759)
 adapt. William Holford, *Voce de Melodia*, 1835
 harm. Lowell Mason (1792-1872)

- 1 もろびとごぞりて ^{むか} 迎えまつれ
^{ひさ} 久しく ^{まち} 待ちにし ^{しゅ} 主は来ませり
 主は来ませり 主は 主は来ませり
- 2 ^{あくま} 悪魔の ^獄 ひとやを ^う 打ち ^{くだ} 砕きて
^捕 とり ^虜 こを ^{はな} 放つと ^{しゅ} 主は来ませり
 主は来ませり 主は 主は来ませり
- 3 この ^よ 世の ^{やみじ} 闇路を ^て 照らしたもう
^{ひかり} たえなる ^{ひかり} 光の ^{しゅ} 主は来ませり
 主は来ませり 主は 主は来ませり
- 4 ^{こころ} しほめる ^{はな} 心を ^さ 花を ^さ 咲かせ
^{めぐ} 恵みの ^{つゆ} 露 ^お 置く ^{しゅ} 主は来ませり
 主は来ませり 主は 主は来ませり
- 5 ^{へいわ} 平和の ^{きみ} 君なる ^こ み子を ^{むか} 迎え
^{すく} 救いの ^{ぬし} 主とぞ ^{しゅ} ほめたたえよ
 ほめたたえよ ほめ ほめたたえよ

ルカ4：18-19 イザ9：1、5 ガラ4：4 イザ61：1-2

1 ま - き - び - と ひ - つ - じ を ま - も - れ る - そ
 2 あ - お - げ - と ば み - そ - ら に き - ら - め く - あ
 3 そ - の - ほ - し し - る - べ り に み - た - り の - は
 4 く - す - し - き ひ - か - り の み - ち - び き - に

の - よ い た - え - な - る み - う - た は あ -
 か - ぼ し よ - る - ひ - る さ - や - か に か -
 か - せ ら メ - シ - ア - を た - ず - ね て は -
 よ - り て は - か - せ - は ま - ぶ - ね の 主 -

め - よ り - ひ び - き ぬ
 が - や き - わ た - れ り よ - ろ - こ - び た -
 る - ば る - た び - し ぬ
 イエ - ス に - ま み - え ぬ

た え よ 主イエス は - う ま - れ ぬ

8888 : 88

The first Noel the angels did say
 English traditional

THE FIRST NOEL
 English traditional

- 1 まきびと 羊^{ひつじ}を 守^{まも}れるその宵^{よい}
たえなる み歌^{うた}は 天^{あめ}よりひびきぬ

(おりかえし)

よろこびたたえよ 主^{しゅ}イエスは生^うまれぬ

- 2 仰^{あお}げば み空^{そら}に きらめくあか^明ぼし^星
夜^{よる} 昼^{ひる}さやかに 輝^{かがや}きわたれり

(おりかえし)

- 3 その星^{ほし}しるべに 三^三人^人の博^{はかせ}士^ら
メシアをたずねて はるばる^{たび}旅^{たび}しぬ

(おりかえし)

- 4 くすしき光^{ひかり}の 導^{みちび}きによりて
博^{はかせ}士^らはまぶねの 主^{しゅ}イエスにまみえぬ

(おりかえし)

ルカ2：8-16 マタ2：1-11

1 み か つ か い の 主 な る お お き み
 2 み か つ か い の 主 な る お お き み
 3 「い つ み と か や かり の き あ こ め な る お お き み
 4 う ち つ た つ か ど い の き あ こ め な る お お き み

世 にと あ れ ま り セ り わ が と も よ
 お お と さ め か の り あ れ と と は ほ は と と た た な えり
 み か さ み の の あ こ と ば ひ と と た た な えり

う た い つ つ ダ ビ デ の む ら に
 ひ た か り つ つ だ ビ デ の む ら に
 こ か え り よ げ ま り み で し ひ か う ら に
 き え う あ ま ま せ につ か あ い ら わ とれ ぬ

き た り て お が め き た り て お が め
 た り て お が め き た り て お が め

Adeste fideles laeti triumphantes
 Latin, 18c.

ADESTE FIDELES
 att. John Francis Wade (1711-1786)
 harm. *The English Hymnal*, 1906

き たり て お が め キ リ ス ト ぞ

12 12 12 : 12

- 1 み^{つか}使いの 主^{しゅ}なるおおきみ
 世^よにあれませり わが^{とも}友よ
 歌^{うた}いつつ ダビデ^{むら}の村に

(おりかえし)

来^きたりておがめ 来^きたりておがめ
 来^きたりておがめ キリストぞ

- 2 神^{かみ}よりの 神^こなるみ子よ
 おとめ^{はは}マリアを 母^{はは}として
 光^{ひかり}より 出^いでし光を

(おりかえし)

- 3 「いと^{たか}高き 天^{あめ}なる神に
 み^{さか}栄えあれ」と ほめ^{ほめ}たたえ
 声^{こえ}あげて み^{つか}使い 歌^{うた}う

(おりかえし)

- 4 うち^{つど}集^{つど}い この^ひ日を祝^{いわ}え
 神^{かみ}の み^{ことば}言^{ことば} 人^{ひと}となり
 今日^{けふ} 生^うまれ 世^よにあらわれぬ

(おりかえし)

ルカ2：15-16 ルカ2：13-14 イザ25：9 ヨハ1：14

1 あ が め ま す 主 を わ が た ま し い
2 も と め ま す 主 は よ わ た と も も を
3 う ち く だ き ま は す ほ こ る も の を

た た え ま す 主 を わ が こ こ ろ は
た た ず ね ま す 主 は よ わ が こ こ ろ は
か み は ち す 主 は よ わ が こ こ ろ は
か み は ち す 主 は よ わ が こ こ ろ は

名 も し れ ぬ お と め 主 は あ え て え ら び
か み は あ わ れ と み と あ いた と を し め び
へ り く だ る も の は ゆ た か に め ぐ ま れ

み 子 の は は と し て も ち いら れ た
わ れ ら に す く い を も た たら せ た
い ま す く い ぬ し は ち か づ か れ たる

7575 8886

My soul doth magnify the Lord
Daniel Thambyrajaf Niles (1908-1970)
Based on *The Song of Mary*

GUNUNG NONA
Maluku folk song